

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課
担当課長名：荒瀬 美和

事業の概要

事業名	スマートICアクセス 市道（仮称）正力西1号線	事業区分	地方道	事業主体	東広島市
起終点	自：広島県東広島市八本松町正力 至：広島県東広島市八本松町正力	延長	0.4km		
事業概要	市道（仮称）正力西1号線は、（仮称）八本松スマートICの整備に合わせて整備する、1次アクセス道路で、現道の市道正力西1号線の改築（バイパス）事業である。				
事業の目的、必要性	<ul style="list-style-type: none"> 東広島市では、市街地の形成や企業立地が進んでいるが、八本松エリアから近接するICへのアクセスには、点在する渋滞箇所を経由する必要があるため、スムーズな移動ができない。 渋滞対策や、まちづくりにおける拠点性向上のため、スマートICの整備にあわせた1次アクセス道路として（仮称）正力西1号線の整備が必要。 ICに合わせてアクセス道路整備を行うことで、山陽自動車道へのアクセスが飛躍的に向上し、地域経済の活性化に繋がる。 				
全体事業費	約5.8億円	計画交通量	約3,000台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
 地元である川上小学校区住民自治協議会から整備の要望がされている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 —

事業採択の前提条件
 事業採択：（仮称）八本松スマートICが事業採択されている。
 費用対便益：便益が費用を上回っている。

事業評価結果

費用便益分析	B/C	4.4	総費用：4.6億円 （事業費：4.6億円 維持管理費：0.03億円）	総便益：20億円 （走行時間短縮便益：19億円 走行経費減少便益：1.8億円 交通事故減少便益：0.03億円）	基準年 令和2年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=4.6 (交通量 +10%)	B/C=4.3 (交通量 -10%)		
		事業費変動	B/C=4.0 (事業費 +10%)	B/C=4.9 (事業費 -10%)		
	事業期間変動	B/C=4.0 (事業期間 +20%)	B/C=4.9 (事業期間 -20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	スマートICの整備に合わせて整備することで、八本松地域の渋滞緩和を図り、産業活動を支援する。		
		事故対策	○	主要地方道 東広島向原線と市道（仮称）正力西1号線の交差点になる、正力南交差点に右折レーンを設置することで、交差点の交通処理が向上し、追突等交差点事故の軽減が期待できる。		
		歩行空間	○	歩道を整備することにより、歩行空間が確保され、歩行者の安全・安心な通行が確保できる。		
	社会全体への影響	住民生活	○	第二次救急医療施設が西条・八本松地区に集中しており、主要渋滞箇所を経由していた志和地区からの緊急搬送が、当該道路を整備することで搬送時間の短縮が可能になり、住民の安全・安心な暮らしが向上する。		
		地域経済	◎	新たに国道2号に整備される道の駅「西条のん太の酒蔵」をゲートウェイとした、観光活性化の取組みを支援する。		
		災害	◎	緊急輸送道路ネットワークに指定される、山陽自動車道と国道2号の連携が容易になり、災害時のリダンダンシーが強化され、新たに整備される道の駅「西条のん太の酒蔵」の防災機能との連携により広域的な防災拠点としての機能が強化される。		
環境		—	注目すべき影響はない。			
	地域社会	○	スマートICと合わせて当該道路を整備することにより、八本松地域の拠点性が向上し、持続可能な街づくりに寄与する。			
事業実施環境	◎	事業採択：令和2年10月23日に（仮称）八本松スマートICが事業採択されている。				

採択の理由

費用対便益が4.4と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件を確認できる。
 また、当該道路と（仮称）八本松スマートICの一体的な整備により、交通混雑が緩和し周辺環境の改善や、高速道路ICアクセスの時間短縮による産業活動への支援に繋がる。さらに、災害時における緊急輸送道路ネットワークの強化が図られ、防災機能を有する道の駅との連携も図られることから、事業の必要性・社会全体への効果が高いと判断できる。
 以上により、本事業は令和3年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。